



「80周年記念宣言」について 大西良嗣

(西部中会 宝塚教会牧師)

本学常勤講師

日本キリスト改革派教会創立80周年に向けて記念宣言の作成を委員の一人として進めています。新しい宣言は「創立宣言」において掲げられた二つの主張「有神的人生観・世界観」と「教会形成」を「神の国」という表現で言い換えようとしています。「神の国」は、言葉で言い尽くせない豊かさを持っていますが、平和、ディアコニア、宣教、善き生活、教会政治、信仰告白、礼拝のそれぞれとの関係においてどのような姿を現すかを宣言の各項目でできるだけ表現し、「神の国」の実現に向けて教会を促そうとしています。

若い世代や他教派から加入された兄弟姉妹にとって、教派のアイデンティティは自明のものではありません。できるだけ分かりやすく、また若い世代の心に響き、彼らを突き動かす言葉を紡ぎ出そうと努力しました。それが、大会から求められた「歴史的な改革派神学の系譜を受け継ぎつつ、わたしたちの教会の福音宣教の活力を呼び起こす、聖霊の力に満ち溢れた言葉」(70周年以後の課題検討特別委員会報告)に一步でも近づくことになると考えるからです。

外国人の教師たちが、この宣言を用いて教派のアイデンティティを教えることになる時代になっていることをも念頭に置かなければなりません。このことは、日本キリスト改革派教会がもはや従来のある方に留まっていることはできな

いのだという現実を認識させます。

これから若い世代や外国人が教会活動の中核を担っていくことを願うならば、教理や神学を保ちながらも、教会で使われる言語表現や使用される音楽などの文化は変えていくことを求められるでしょう。若い人たちは軽々とその変化を乗り越えていきますが、犠牲を強いられるのは年上の世代です。80周年記念宣言で語られた内容が教会を動かし、活力を与えていくときに、「古き良き教会」を失って喪失感に苦しむのは若い世代ではありません。

このような痛みを抱えることになる世代の方々には心苦しく思いますが、次の世代のために変化を受け入れていただくことは、これから90周年、100周年へと向かっていく教会のために必要なことです。しかし年長者が次の世代のために歩み寄る姿は、「神の国」の姿を表すものとなるのではないのでしょうか。そして歩み寄る模範があることで、若い世代が年長の世代のために歩み寄るように促すことも可能になります。

神学校教育も、この時代の中で神の国の進展に仕える教師を養成するものでなければなりません。単に教えられてきたことを繰り返すのではなく、受け継いでいるものを聖書的に捉えなおし、この時代に遣わされた教会に仕えるものになる努力が必要です。

夏期伝道報告



4年生

安崎 嗣穂

(あんざき つぐほ)
西部中会
山本伝道所所属

今回私は7月に新座志木教会、8月に秩父教会に遣わされました。今回の夏期伝道で最も印象に残っているのは教会員の皆様のお姿です。両教会とも現在無牧であり、信徒の皆様が本当に様々な奉仕をして教会を支えてくださっています。新座志木教会では無牧の間も変わらず子どもたちのために夏期学校を開催してくださっていました。秩父教会では栄光墓苑の管理も担ってくださっていました。そのような皆様のお姿を拝見し、わずかながらお手伝いできたことは、私にとって大きな喜びでした。

翻って、私自身の奉仕はつたないものだったと思います。本当に、わずかばかりのお手伝いでしかなかった、そのように思います。私は目の先のことを行うのに手一杯で、大きな視野を持って行動することができませんでした。おそらくこれが、今私の向き合うべき課題でしょう。主のみ助けを願いつつ、この課題と向き合っていかなければならないと心から思わされました。

また、今回の夏期伝道では、私自身が御言葉から大きな励ましを受けることができました。現在私は神学校最終学年の日々を過ごしています。卒業後の進路について考えることも多く

なってきました。自分を見るにつけ、本当に私は宣教の現場に立つことができるのか、そのように問わずにはられません。私は先に挙げたもの以外にも、多くの課題を持つ人間です。しかし、キリストの弟子たちも完璧な人間ではありませんでした。彼らは復活のキリストを目撃しました。にも拘らず、彼らの中には「疑う者もいた」(マタイ28:17)のです。にも拘らず、そのような弟子たちに、キリストの方が近づかれました。このことが、私にとって大きな励みとなりました。キリストを信じ、全てを委ねようと改めて心に刻みました。

この場を借りて、受け入れてくださった両教会に心から感謝を申し上げます。今後とも両教会がそれぞれの地において豊かに用いられまよう祈ります。



安崎嗣穂 新座志木教会、秩父教会

牧田創 北中山伝道所

豊田真史 伊丹教会、銚子栄光教会

山口英俊 甲子園伝道所、熊本伝道所

服部宣夫 徳島西部伝道所、神港教会

三野豊 西神教会

牧野有仕 北神戸キリスト伝道所、新座志木教会

金慶熙 千里摂理教会

田好愛基 めぐみキリスト伝道所、徳島西部伝道所

張聖吉 宝塚教会



4年生

豊田 真史

(とよだ まさし)

東関東中会

新浦安教会所属

7月は兵庫県の伊丹教会へと派遣されました。一ヶ月ですが、奉仕させていただいて、教会の中には本当に今人生の困難、痛みの中にいる方々がいらっしゃることに気付かされました。私としては、その方々に慰めのある言葉を語りたいと思いました。しかし私はまだ人生の経験も浅い者です。ですから何も知らない私に何が語れるのだろうか、非常に悩みました。けれども、そのような中で、御言葉に固執して、神様から聞いたことを語ろうという思いに導かれました。神様がどう用いて下さったかはわかりません。しかし毎回熱心に教会の方々は耳を傾けて下さいました。今回改めて、神様は働いて下さるということを知ることができました。きっと私が語りたいことを語り、わたしの思いで説教していたならば、安っぽい慰めになったのではないかと思います。わたしたちの思いを超えて神様は働いて下さることを確信させて頂く一時となりました。

8月は千葉県にあります銚子栄光教会へと遣わされました。銚子栄光教会でも、日曜日の礼拝での説教やCSでの奉仕を担当させていただきました。この教会に特徴的なのは、保育園を併

設していることでした。私も保育園で毎週金曜日に礼拝メッセージを担当しました。そこで子どもたちがメッセージをととても良く聴いてくれることに驚かされました。園児たちは毎週メッセージを聴いているため、クリスチャンファミリーではありませんが、自然な形で聖書に親しんでいることに感銘を受けました。また教会では、毎月卒園生のための集会も行われており、教会が関係を持ち続けています。私も給食と一緒に食べたりするなど子どもたちと共に過ごせることがとても大きな恵みでした。地方にあってどのように伝道していけば良いかということについて、銚子栄光教会から多くのことを学ばせていただきました。

それぞれ、夏期伝道を受け入れて下さった伊丹教会、また銚子栄光教会、そして二ヶ月間導いて下さった神様に心から感謝しております。





4年生

服部 宣夫

(はっ通りのぶお)

中部中会

吉原富士見伝道所所属

神学生最後の年の夏期伝道は、7月は徳島西部伝道所へ、8月は神港教会へと遣わされました。神学生の派遣を喜んで受け入れて下さったそれぞれの教会に心からの感謝を申し上げます。

最後の夏期伝道では、それぞれ教会に属しておられる兄弟姉妹との交わり、求道の方々との交わりが深められるという素晴らしい恵みに与ることができました。主の日の礼拝の前、礼拝の後、週日の祈禱会の前、祈禱会の後の交わりにおいて、あるいは食事の交わりにおいて、ふとした挨拶から始まるその時の出会い、そこから続いていく様々な消息のやり取り、小話、「実は…」という魂から出てく話。それらすべてが新鮮であり、喜びであり、深く心に残るものでした。そして私にとって深められた思いは、そのような交わりを成り立たせて下さる方、交わりを導いて下さる方、交わりの中で交わされる言葉を聞いて下さっている方を覚えることができたことです。まさに主イエスが約束してくださった「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中

にいらのである」(マタイ18:20)という恵みの現実でした。さらに、この交わりを通して、祈りの課題が与えられたことも深い恵みの経験でした。それは、祈りにおける課題とは、新たに開かれていく恵みの扉であることが本当に分かるようにさせていただいたという経験です。しかし、そのようにして、それぞれの教会の皆様との祝福がかみ合ってきたことを覚えることができた時に、夏期伝道期間は終わりとなってしまいました。誠に残念ではありましたが、神学生としての定めであると自らに言い聞かせました。あっという間の2か月間でした。今、預言者エレミヤに主がお語りくださった「もし、あなたが軽率に言葉を吐かず／熟慮して語るなら／わたしはあなたを、わたしの口とする」(エレミヤ15:19)の御言葉が、交わりの恵みを与えられた私をさらに導く指針として与えられています。



3年生

牧野 有仕

(まきの ゆうじ)

東部中会

江古田教会所属

私は7月に北神戸キリスト伝道所、8月に新座志木教会へと遣わされました。北神戸キリスト伝道所では、祈禱会での奉仕が主な奉仕となりましたが、私はその祈禱会がとても印象に残っています。司会や奨励の奉仕を通して得た恵みもたくさんありましたが、何よりもそこで祈られる祈りによって、私は力を得ました。それはなぜかという、何よりもそこに神様がい

てくださるということを感じたからです。牧師館での小さな祈祷会でしたが、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)というイエス様の言葉がそこに映し出されていたようでした。8月の説教では、ダニエルが3人の友人と共に祈る箇所(ダニエル2:17-23)を取り上げましたが、本当にそのような小さな祈りの交わりの中に神様がいてくださるということ、御言葉を通して、また実際の祈祷会を通して感じる事ができたことは大きな恵みでした。

新座志木教会では、3回中2回の朝拝説教をダニエル書から行いました。私にとってダニエル書から説教をするというのは大きなチャレンジでした。実際にダニエル書に取り組んでみる

と、やはり難解なところが多く、苦しみました。ダニエル書10章のダニエルのように、御言葉を読みながら力が抜けてしまって、何もせずぼーっと座っているだけという時間も多かったです。自分がいかに説教できない者であるかということを実感され、もう祈ることしかできなくなったそのときに、神様はわたしに触れて力を与えてくださいました。このときの自分の姿と、10章のダニエルの姿が本当によく重なって見えました。自分の力で御言葉を語るのではなく、神様から力を受けて御言葉を語ることができるということを教えられて、励まされ、語る勇気が与えられました。礼拝当日は、新座志木教会の皆さまが熱心に御言葉を聴いてくださり、礼拝後にはさまざまな感想を伝えてくださったことを心から感謝しています。



2年生

田好 愛基

(たよし あいき)

東部中会

江古田教会所属

私はめぐみキリスト伝道所(7月)と徳島西部伝道所(8月)に遣わされました。多くの方々の祈りと励ましによって、初めての夏期伝道が支えられました。とりわけ、未熟な私を温かく受け入れ、様々な面で助けてくださいまし

た両教会のみなさまには深く感謝を申し上げます。

様々な恵みをいただきましたが、そのうち1つの経験を記させていただきます。ある主日の礼拝に未信者の方が来られました。教会のすぐ近くに住んでおられ、私も夏期伝道の初日にご挨拶させていただいた方です。ですから、日曜日の朝にその方が今日来てくださると聞いた時、とても嬉しく思いました。いざ、講壇に立ってその方を目の前にしたとき、この人に福音を伝えたいという強い思いを抱きました。私は今日この人に福音を語るために説教をするのだ、そのくらいの思いでした。福音を語るこ

とのできる喜びを強く感じました。と同時に、ハッとしました。この説教では伝わらないと思ってしまったのです。当たり前「救い」という言葉を使い、既にキリスト者であるということ的前提に語ろうとしていたのです。

なぜ未信者の方が来ることを想定していなかったのか。礼拝に出席される方をどのくらい具体的に想像して祈っていたのか。説教者としての祈りの欠けに気づかされました。

2つの問題点があったと振り返ります。1つは、未信者の方が来てくださる期待をもって祈り備えていなかったこと。もう1つは、説教と

祈りとが切り離されていたことです。教会の方を覚えて祈るというのは、ただ生活が守られるようにとか、悩み苦しみを取り去られるようにとか、そういうことだけではない。この人を御言葉によって生かしてくださいという祈りが、特に説教者の祈りには不可欠なのだと思います。

今、通年派遣の灘教会では、「神において聴く」とはどういうことか思い巡らしながら礼拝生活を送っています。夏期伝道を通して学んだ“説教者としての祈り”からその一つの答えを得られたように思います。この祈りがますます深められていくことを願います。



2年生

牧田 創

(まきた はじめ)

東北中会
仙台教会所属



初めての夏期伝道を所属中会である東北で行うことができました。自分が慣れ親しんだ場所で、よい訓練と奉仕の時を持つことができました。夏期伝道のために多くの準備をしてくださった方々、夏期伝道の間私たち家族を支えてくださった方々、共に礼拝を守り、交わりを持つことがゆるされた方々に心より感謝申し上げます。

夏の2ヶ月間、私は仙台にある北中山伝道所

で過ごしました。教会の前にはいくつかのプランターがあり、朝起きたら花の水やりをすることが私のささやかな日課でありました。夏期伝道も終わりの頃、あるご婦人が「牧田さんが帰ったら、毎日教会に来て水やりをしなきゃね」とおっしゃいました。そのように教会に仕えておられる方々、教会に集まって来られる方々を心に留めつつ、毎週の説教を準備できたことは私にとって大切な経験となりました。わずか2ヶ月でしたが、一つの教会で同じ方々と共に御

言葉に聴き続けることに、私は新鮮な感覚を覚えました。まだ良い表現を見つけてはいませんが、説教を準備しつつ「一人ではなく、教会の方々みんなで説教の言葉を探している」感覚がそこにはありました。確かに説教者が最初に御言葉に聴き、説教を準備するわけですが、「よい羊飼い」はただ主イエスお一人であって、説教者も聴衆と共に御言葉に聴く「羊」です。その意味で説教は教会的行為であることを、北中山伝道所の方々と共に礼拝を捧げることを通して実感したように思います。それは大きな喜びでもありました。

この夏の間、仙台教会（私の出身教会）、東仙台教会（私が生まれた教会）、白石契約伝道

所、亘理伝道所、福島伝道所でも礼拝を共にすることができました。私が勤めていた宮城学院中学校高等学校で朝の礼拝を共に守る貴重な機会も与えられました。そのように、私の夏期伝道は懐かしい再会と新たな出会いに恵まれ、喜びに満ちたものになりました。ここからまた思いを新たに、神学校での学びに励みたいと思います。



2年生

山口 英俊

(やまぐち ひでとし)
中部中会
豊明教会所属

初めての夏期伝道として、7月は甲子園伝道所、8月は熊本伝道所に遣わされました。吉田隆先生と瀬津省一先生から多くのことを教えていただきました。一番の修練は、説教づくりです。教えられた手順に従って、黙想、ギリシア語本文の確認、釈義、再黙想などを行います。問題はこれら全てを終えた後の説教原稿を作る段階です。それは2000年前に記された聖書の御言葉を現代の私たちに向けて語り直す作業です。言葉がなかなか出てきません。毎回そうで、苦しい時間でした。祈り、学んだことを思い巡らしつつようやく最初の原稿が出来上がります。しかしその原稿は自分で読んでも全然響いてきません。何が足りないのか、どこが間違っているのか、自分ではわかりませんでした。原稿を見てくださった両先生から、教理的

誤りはもとより、教える説教になっていること、多くを語り過ぎであること、論旨がすっきりしないこと、御言葉が言っていないこと語っていることなどが指摘されました。毎回、上から目線で聞き手に寄り添っていない自分、御言葉の上に自分を置いて自分の言いたいことを語ろうとしている自分、御言葉に生かされていない自分を思い知らされました。このような未熟な者を温かい目で見守り、適切なご指導いただいた両先生に心から感謝をいたします。同行した妻がそれぞれの奥様から励ましをいただいたことも感謝でした。

また主の日の来会者を迎える準備、CS、夏の子ども行事、駅前でのトラクト配布などの奉仕も大変良い訓練となりました。家庭集会にも参加させていただき、リラックスしたアットホームな交わりを体験することができました。

そして、教会員の皆さまが温かく迎えてくださり、多くの励ましと楽しいお交わりを下されたことが、何よりの支えとなり、心が癒されました。おかげで心挫けることなく初めての夏期伝道を無事終了することができました。本当にありがとうございました。



2年生

三野 豊

(みの ゆたか)

東部中会

東京恩寵教会所属



私はこの夏、神戸市にあります西神教会で夏期奉仕を行いました。西神教会は私の通年派遣の教会でもあり、今年度は「一つの教会の営みを一年を通して経験する」という恵みに与っています。特に夏期奉仕の間は、弓矢健児先生のお働きを間近で見させて頂きながら、様々な奉仕や経験をさせて頂きました。その結果、多くの恵みと学びと経験とが与えられました。

私が夏期奉仕期間を通して任された奉仕は、毎週水曜日の夜と木曜日の朝に行われている祈祷会の進行と奨励でした。それぞれ7回ずつの奨励が任されることが分かっていたため、ヨハネの黙示録2章と3章にある「7つの教会にあてた手紙」を順番に取り上げました。毎週連続して奨励を行うのは初めてだったので、限ら

れた時間で準備をする良い訓練になりました。毎週一つの奨励を準備するだけで手一杯でしたが、祈祷会に加えて日曜日の朝拝、午拝、そしてその他のお働きを毎週行っている先生方の凄さに改めて気付かされました。

水曜日と木曜日の祈祷会では、同じ内容の奨励を毎週二日連続で行いました。奨励直後には出席者の方々がご感想やご質問をして下さる時間があつたのですが、水曜日と木曜日で異なるご感想やご意見を頂けたことがとても興味深かったですし、学びにもなりました。そのような経験を通して、「礼拝や集会に出席されるであろう一人一人の顔を思い浮かべながら説教の準備をすることの重要性」を身を持って感じる事ができました。

夏期奉仕ではその他にも、西神教会が行っている夏期学校や家庭集会などへの参加、午拝の奨励、伊丹教会での奨励奉仕など、様々な経験をしました。何より、夏期奉仕を通して西神教会の方々とのお交わりを更に深めることができたので、今年度の残りの通年派遣が非常に楽しみになりました。これらの経験を通して多くの学びと恵みを与えて下さった神様に感謝します。





特別研究課程1年

金 慶熙

(キム キョンヒ)

東部中会
坂戸教会所属

私は夏休みの間、通年派遣教会(千里摂理教会)に遣わされました。私は子ども関連の活動と通年教会の求道者会(オンライン)に何回か参加させていただきました。求道者会では、牧師先生のメッセージをきき、そのメッセージをもって分かち合うことの喜びを感じさせてもらえた大事な時間でした。

7月には、神学校に在寮していたため北神戸キリスト伝道所のCS行事を手伝わせていただきました。神学校に近所の子どもたちがたくさん集まり、とても楽しい時間を過ごせたことを、感謝いたします。そして、西部中会の合同夏期学校でのお働きがゆるされ、2泊3日の間、景色のよい所で、奉仕のつもりが礼拝の恵みとかわい子どもたちの笑顔に囲まれて心身ともに癒される時間になりました。奉仕が決まってから、準備の期間、オンラインを通じて5年生を担当された先生たちと共に毎日行事と子どもたちのための働きの内容打ち合わせ、また祈りの時間が与えられたこと、とても感謝しております。

8月には、通年教会の千里摂理教会でこどものお楽しみ会があり、駐車場の狭い空間にも関

わらず、プール遊びや様々な遊びで楽しい時間を過ごしました。やはり子どもたちには、同年の友達との時間を大事にしたい、楽しい時間を持ちたいという願いがあることに改めて気づきました。児童・青少年伝道の面でも、信仰継承の面でも、地域教会の働きの課題だけでなく、若い世代が信仰をもち、教会につながるができるように、祈りとともに具体的なビジョンや計画、方法などを共有しつつ、自分自身の生涯の課題として考え歩みたいと思います。

教会学校の子どもの数が少なくてもよりCS教師が多い状態の諸教会、それでもいつも精いっぱい教会学校のために情熱をもってご奉仕をされ、また危機感を抱きながらも、教会学校の活性化のために祈り、苦勞される牧師先生をはじめ、教会学校の先生たちに敬意を払います。



特別研究課程1年

金 奎承

(キム ギュスン)

在日大韓基督教
明石教会所属

私は夏期伝道には出ませんでした。西部中会教育委員会主催で行われた合同夏期学校(7/30-8/1)にスタッフとして奉仕することができて本当に感謝し、小学生である私の2人の娘も一緒に子どものキャンプに参加し、楽しく有意義な時間を過ごしました。今回のキャンプは、次の世代のための教会の信仰教育と子

どもキャンプをどのようにしたら効果的にできるかを考え、経験した貴重な時間でした。自分の子供たちも来年また参加したいと笑顔で話していました。

また、夏休みを利用して韓国から明石教会を訪問した2つの教会(ソウルの忠信教会7/1-5ソウルの平岡教会8/22-26)の短期宣教チームと協力し、日本人を対象とした宣教を行うことができ、感謝と意味のある時間でした。青年時代に短期宣教(7回)で海外に行ったことはありますが、今回のように宣教師として短期宣教チームを迎えて率いたのは初めてで、感慨深いものがあり、責任を感じました。

何よりも、路傍伝道とホームレスのミニストリー、韓国料理教室を通して日本人にキリストの愛と福音を宣べ伝えることができたこと、また、日本人が福音を聞く機会が与えられたことに本当に感謝しました。今すぐ目に見える実がなくても、神の時が来れば、福音を聞いた人の中で予定された誰かが神の子になると信じています。神様が福音に触れた彼らを憐れんでくださり、早く教会に導いてくださることを祈っています。

最後に、私は協力している明石教会の他に、

無牧教会である姫路薬水教会(在日大韓基督教会)に1~2ヶ月に一回、御言葉の奉仕をしています。韓国人と日本人で構成された10人前後の信徒が集まって礼拝を捧げていますが、残念ながら教会に子どもがいないため、教会学校が行われていません。教会に信徒を愛する良い牧師先生が来られ、教会が健全に成長することを願っています。



特別研究課 1年

張 聖吉

(ジャン ソンギル)

大韓イエス教長老会白石派
弥阿(ミア)教会所属

私は他の神学生と同じように7月と8月の間にそれぞれの教会に夏期伝道奉仕は派遣されませんでしたが、それにもかかわらず神様の恵みを感じられました。

まずは2回の能登のボランティア活動です。7月は神学生と一緒に訪問してボランティア活動をしました。とても有意義な時間で、地震の被害があったところを訪問してボランティア活動することは初めだったため、色々勉強になりました。もし、私が働くところで能登のような地震が起こったら、どのように行動すれば良いかについて間接的に体験する時間になりました。

そして、8月も私の通年派遣先である宝塚教会からの能登でのボランティア活動がありました。能登の訪問が二回目だったため慣れもありましたが、人手が必要とされるところが未だに多いことに気が付きました。

また、宝塚教会での4回の説教奉仕をしました。日曜の朝の礼拝と3回の水曜祈祷会奉仕がありました。日本語で説教をする経験が足りなかった私にはとても大切な経験になりました。この経験を通して少しは成長し、日本語で説教する貴重な時間になりました。また、自分の課題として日本語で説教する能力をもっと磨く必要性を感じられました。正しく日本語で説教するために、常に努力することは、私の一生の課題だと思います。

最後の恵みは西部中会の合同夏期学校にスタッフとして参加したことです。初めての合同

夏期学校であったため慣れないところもありましたが、この機会を通して日本で行われる夏期学校について勉強する時間になりました。

最初は7月と8月にどのように過ごすかについて不安もありましたが、神様は私に色々な経験をするように導いてくださいました。神様は私が考える以上のものを用意してくださる方ということをもう一度感じられました。私をこのように導いてくださった神様の恵みに感謝します。そして、今年の経験を生かし、足りない日本語の能力をもっと補って、来年の夏期伝道を準備するつもりです。



New
Books

『改革派神学 第48号』

- 著者：吉岡契典、金昭貞、ステファン・ファン・デア・ヴァット、木下裕也
柏木貴志、西堀元、吉田崇他
- 販売価格：1,500円+税（神戸改革派神学校、2024年）



2つの講演、5つの論文、2つの研究ノートに掲載する充実した内容となっています。吉岡契典先生の教授就任講演は、改革派教会の創立80周年記念宣言を作成する上での基礎作業と言えるもので、創立者たちの「有神的人生観乃至世界観」を検証し、「神の国」という表現で発展的に受け継ごうとしています。川瀬弓弦宣教師が働くハンガリー改革派教会について、私たちは十分に知っているとは言えません。その歴史について、吉田崇先生がフィリップ・ベネディクトの論文を翻訳し、ご自身でも研究ノートをまとめてくださっています。岩崎謙先生は、津田梅子の肖像が新五千円札に採用されたことにあわせて、信仰者としての彼女の姿を研究ノートにまとめてくださいました。その他にも、多くの執筆者による興味深い論考が掲載されています。ぜひ手に取ってお読みください。

夏期信徒講座報告



2024年7月5日(金)から6日(土)の二日間、神戸改革派神学校主催の夏期信徒講座が神港教会にて開催されました。主題は「はじめて読む397年のアウグスティヌス」、講師は岡山教会牧師・神戸改革派神学校講師の柏木貴志先生でした。

主題において語られている「397年」とは、古代教父アウグスティヌスが、代表作のひとつである『告白』を書き始めた年であり(完成は400年)、前年の396年にヒッポの司教ウアレリウスを天に見送った後のアウグスティヌスが、司教として歩み始めた年でした。さらにその年は、アウグスティヌスに洗礼を授けたミラノの司教アンブロシウスが天に召された年でもありました。その397年のアウグスティヌスの人間像、その信仰的な内実を、アウグスティヌス自身の著作や書簡から、立体的かつ丁寧に読み解くという、まさしく柏木先生にしか語れない、5回にわたるボリュームのある講演でし

た。各講演のテーマは、Ⅰ「時代」、Ⅱ「聖書」、Ⅲ「謙遜」、Ⅳ「恩寵」、Ⅴ「教会」というかたちで区分され、アウグスティヌスを語るうえで欠かすことのできない、マニ教からの回心、詩編から垣間見るイエス・キリスト、自身の罪と自由意思の葛藤の問題と、すべてを覆う力強い恩寵への開眼、さらにその恩寵の下に置かれる教会という諸々の要素が、バランスよく各講演において配列され、それぞれの講演の中でのハイライトとして映えていました。

洋書にはよく『リーダー・オブ・宗教改革』のようなかたちで、第一次文献のダイジェストを読みやすくまとめて配列してくれている書物がありますが、ちょうどそのようなかたちでアウグスティヌスに触れ、その肉声を聞くような機会に恵まれ、大変親しみを覚えました。

本講座はほどなく冊子にまとめられる予定です。多くの方々に手に取っていただきたいと思います。

吉岡契典(本学学監・教務)



秋の信徒神学講座



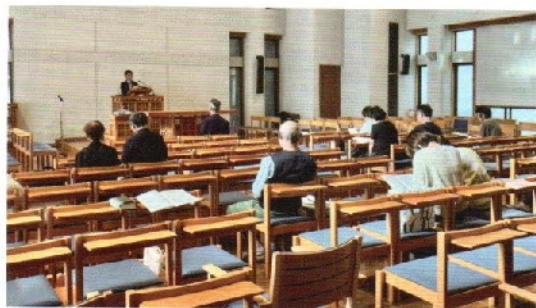
10月5日と12日に、神港教会にて神学校主催の秋の信徒神学講座が開講されました。今回は「長老主義政治」をテーマに、神学校専任教授の吉岡契典先生が講演をしてくださいました。長老主義政治の教会における具体的な実践の以前に、その背後にある原理に焦点を当てて、教会政治とは何かという根本から始めて語ってくださいました。

印象に残っていることは、先生が講演の中で繰り返し語っておられた「目的と手段を分けて考える」ということです。何も教会政治に限った話ではないかもしれませんが、これから大切にしていきたいと思われました。教会の目的はこの地上に神の国を形成・反映することですから、教会政治はキリストの王権の実現を目標として行われなければなりません。教会では様々な会議が行われますが、多種多様な人が集まる教会では意見も様々です。その際、大切にしなければならない目的と柔軟に変化させ得る手段とは分けて考える必要があります。目的に合うならば、極端に言えば手段は何でも良いので

す。もちろん、どういう手段が適切かは状況に合わせてよく考える必要があります。しかし、神の国建設という目標で一致できるならば、自分の考えを固守するのではなく異なる考えを受け入れるという姿勢を持つべきではないかと、頭の固い私は反省させられました。宣教は人間の「愚かな手段」(Iコリント1:21)であるという認識を持つことも大切ではないでしょうか。良い意味で伝統に固執することなく、新しい、豊かな手段を認めること。そのことによって、宣教と教会形成におけるより多様な幅広い道が開かれるのだと思います。

同じ月の半ばには定期大会が開催され、神学生として陪席させていただきました。会議において、政治規準改正の提案が扱われました。講演を通して学んだことを思い起こしつつ、長老主義のもとでのふさわしい教会政治について考えを深める実践的な学びの機会となり、感謝でした。

田好愛基(2年生)



日韓宣教研究所公開セミナー



10月25日に「第7回日韓宣教研究所セミナー」が神戸改革派神学校で開催されました。講師には李寿求（イ・スグ）先生という、2015年から現在に至るまで韓国の「日本福音宣教会（JEM）」の代表として日本宣教に携わっておられる先生をお招きしました。

午前の講演では、先生が25年間にわたって、札幌で伝道活動をしてこられたその歩みを聞きました。印象に残っていることは、先生が伝道活動の中で「小グループ」の形成を重視しておられたということです。小グループを形成することによって、個人が持っている深い思いをお互いに打ち明けることができ、信頼関係が生まれてきます。また、その小グループの中で弟子訓練を行い、信徒一人一人が教会の中で他のメンバーをケアできるような共同体づくりを目指されたそうです。日本ではなかなか弟子訓練というものは根づいていませんが、それは訓練の中で「主の弟子」ではなく、「牧師の弟子」

が生まれてしまうような危険があるからだと言っていました。そのため、牧師も同じレベルで「主の弟子」となり、それぞれが相手のことを尊重しつつ、弟子訓練をおこなっていく必要があるということを学びました。また、伝道活動の中で、様々な「カフェ」を開催していたということも印象的でした。高校生の居場所となるような「カフェ」、言語を学びたい人たちが集まる「カフェ」などが紹介されましたが、その教会が置かれている地域のニーズや教会員の賜物に合わせて教会を地域に開いていくということの大切さを教えられました。

午後の講演では、日本福音宣教会（JEM）の働きについてお話を聴くことができました。JEMは日本の47都道府県すべてに宣教師を派遣し、教会を建て上げることを目標として、30年で80名の宣教師を日本に派遣してされました。超教派の宣教団体ですが、日本キリスト改革派教会にも何名かの宣教師が遣わされています。日本の宣教に熱心に取り組んでくださっているJEMの働きを知り、感謝の思いとともに、日本の教会が宣教師の方々の賜物が十分に生かされるように、宣教の場を整えて行く必要があるという課題を認識することもできました。

牧野有仕（3年生）

能登ヘルプのボランティア報告

今年7月に2チームに分けて行ったボランティアに続く、神学校としては2回目のボランティア派遣として、11月18日(月)から21日(木)まで、1週間を休講とし、能登ヘルプのボランティア活動に、神学生全員と吉岡教授・ステファン教授の引率の計13名で向かいました。期間中、金沢伝道所を拠点とし、漆崎先生ご夫妻と教会の皆様にも宿泊をはじめ様々な面でお世話になりました。

働きとしては、19日(火)から21日(木)までの3日間、朝8時前に能登ヘルプの本部があります内灘聖書教会に集合し、そこから能登半島の各地の現場に派遣していただき、奉仕をいたしました。19日(火)は、河川氾濫の被害に遭った輪島市下黒川町のビニールハウスに行き、ビニールハウス内に堆積した土砂を掻き出し、土嚢に詰めて搬出する作業を行いました。20日(水)には、七尾市和倉温泉にて、地震で被害を受けた改築前の温泉旅館から廃材や家具の運び出しを行いました。そして21日(木)には、輪島市鳳至町の商店脇の数十メートルにわたる側溝の泥かきを行いました。ボランティア派遣の間も神学生たちが守られ、そこから多くの出会いと、将来の働きに資する経験をそれぞれが持ち帰ることができました。そこに皆様のご支援と祈りがあったことを覚えて、感謝をもってご報告させていただきます。





「もっと楽しく 自由とゆとりのある神学校に！」



来年4月より、神学校のカリキュラムを全面的に見直し、また現在の三学期制を前期後期の二期制に変更いたします。また同時に、現在の1コマ50分の授業の2コマ分を1コマに圧縮して90分授業とし、現在の午前8時30分始業、昼食を挟んで午後2時20分までで4限終業という基本授業時間を、午前8時30分に1コマ目始業、チャペルを挟んで午前11時に2コマ目始業、午後12時30分に終業とすることで、昼食前に基本授業時間を終えるというサイクルに変更します。このことによって昼食後を、学生たちが自主的な学びやゼミナール、自由な活動を行える時間といたします。さらに、1コマを90分にすることによって、授業内容を切れ目なく凝縮し、今後積極的な導入を検討しておりますオンラインでの授業の配信にも対応しやすい体制を整えます。

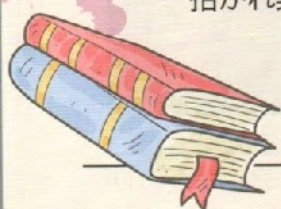
誌面別頁に掲載しております2025年年間行事予定にも示されていますが、前期は7～8月の夏期伝道期間を挟んで4月～10月とし、より多くの方々に届く講演会実施のために、11月3日の祝日を後期開講講演会に設定して、11月～3月を後期期間といたします。



この変更の一番の目的は、かなり過密となっております現状の授業日程に程良い余裕を生み出すことで、神学生がより豊かで自由な神学校生活を送ることができるようになることです。この変更は、講師陣が一日を長く使えるようになるという利点にもつながります。またこの変更によって、非常に充実しております神学校図書館の積極的な活用を学生たちに促して、卒業後、生涯にわたって教会で仕えつつ学び続けていくために必要な、生涯学習のスキルを、しっかりと身に付けていただきたいと考えています。

さらに、勉学のみならず、自分自身と神を見つめてじっくりと祈り、自らの召命を確かにしていく豊かな時間が神学生には必須です。その霊的、信仰的な養いと向上のためにも、この新カリキュラムが資することを教授会として願っております。この変更によって神学校における教育的・霊的環境がより豊かに整えられ、神学生が献身の喜びと祝福を益々豊かに受け取り、牧会者として歩んでゆくための力をしっかりと蓄えることのできる場所として、神学校が整えられてゆくように。神学校がより魅力的な場所となり、多くの学生たちが、これからも招かれ集められるように、お祈りに覚えていただけますなら幸いです。

吉岡契典（本学学監・教務）



第3学期

- 1月6日(月)・開講準備
 7日(火)・第3学期開講講演会(講師:ステファン教授)
 10日(金)・入学願書締め切り
 31日(金)・全校祈祷日(講師:遠山信和教師)
 2月4日(火)・入学試験
 28日(金)・第3学期最終講義・卒業生歓送会
 3月4日(火)・第73回卒業式
 5日(水) - 7日(金)・リーディング・ピリオド(含補講)
 11日(火) - 14日(金)・学期末試験
-

前期

- 4月3日(木)・開講準備
 4日(金)・第76回入学式、前期開講講演(講師:木下裕也講師)
 6月5日(木) - 6日(金)・神学校リトリート(講師:松田牧人先生)
 27日(金)・夏期伝道派遣式
 7月1日(火) - 8月31日(日)・夏期伝道(2~4年生)
 7月4日(金) - 5日(土)・第48回夏期信徒講座(講師:80周年宣言作成委員会)
 7月8日(火) - 8月29日(金)・ギリシャ語文法集中講義(1年生)
 9月1日(月) - 8日(月)・夏期休暇
 9月9日(火)・授業再開
 10月10日(金)・前期最終講義
 14日(水) - 17日(金)・リーディングピリオド(含補講)
 21日(火) - 24日(金)・前期試験
-

後期

- 11月3日(月、祝)・後期開講講演(講師:福西裕子講師)
 12月19日(金)・クリスマス礼拝・冬期休暇前最終講義
 2026年1月6日(火)・授業再開
 10日(土)・入学願書締切
 30日(金)・全校祈祷日

神戸改革派神学校

2025 年度新入生募集案内

激しい時代の変化の中で、変わることのない神の国の福音の希望を伝えるために、あなたの人生を主に献げてください！

本科課程 (4年制)

教職養成課程です。ゆとりある充実した授業とともに実践面を強化します。

短期課程 (2年制)

教会に献身する信徒のためのコース！
信徒説教者・信徒リーダーなど教会献身者の神学教育のために。

特別研究課程・
聴講制度あり

★ 願書締め切

2025
1/10(金)

★ 入学試験

2025
2/4(火)

まずは
お問い合わせ
ください。

